



のいる風景

山田 貴志 さん



【やまだ たかし さん】 39歳 梅ヶ丘

●支笏湖漁業協同組合増殖課長

支笏湖漁業協同組合でヒメマスのふ化に携わる。支笏湖の釣り解禁期間（6月～8月）には、湖上での巡視を行っている。

ヒメマスを通じて支笏湖 がもっと活気づいてほしい

「僕」が子どもの頃は、支笏湖で釣りをする方が今よりもたくさんいましたね。そう語るのは、支笏湖漁業協同組合でヒメマスのふ化作業に携わっている山田さんです。

現在、支笏湖は釣りの解禁期間中。安全に釣りを楽しめるよう、2日に1回、早朝3時から巡視を行っています。支笏湖小学校の卒業生でもある山田さんが組合の職員になったのは、今から5年前。当時、ふ化場に勤めていた先輩から、一緒にやってみないかと誘われたのがきっかけです。「小学生のとき、同級生のお父さんが、ふ化場で働いていたこともあり、ヒメマスを見せてもらったり、ヒメマス釣りもよくしていました。昔からなじみのあるヒメマス、そのふ化に携われるという期待から、誘われたときに迷いはありませんでした」と当時を振り返ります。

ふ化の作業は、毎年10月に採卵のためヒメマスの親魚しんぎょを捕獲することから始まります。「支笏湖のヒメマスは、誕生してから4年で産卵を迎えます。放流した年を見分けるために、お腹はらの左右にある腹鰭はらびれ、背中にある脂鰭あぶらびれのうち1つに切り込みを入れています。毎年、産卵のために捕獲したヒメマスは、4年前に放流した稚魚がたくさんいるので、無事に成長した姿を見ることができて嬉しいです」と笑みを浮かべます。

捕獲した親魚から採卵し、卵を受精させた後、約90日でふ化します。ふ化したとき、体長はおよそ2～3cm。5月の放流までに体長6cm、重さ1グラムほどの稚魚に育てます。「ヒメマスは、水の流れに逆らって泳ぐ習性があるので、水槽内に水流を発生させて育てます。正しい方向に水流が発生しているか半日以上、水の中に手を入れて確認する日もあります。また、水槽の水は、ふ化場近くの沢から引いたものを使います。昨年の大雨で、水を引くタンクに土砂が入ってしまいました。幸いにも、ふ化作業の時期ではなかったのでヒメマスへの被害はありませんでしたが心配は絶えません。油断すると、稚魚が全滅してしまうことがありますが」と生き物を扱う難しさを語る山田さん。